

中国景気概況(2022年5月)

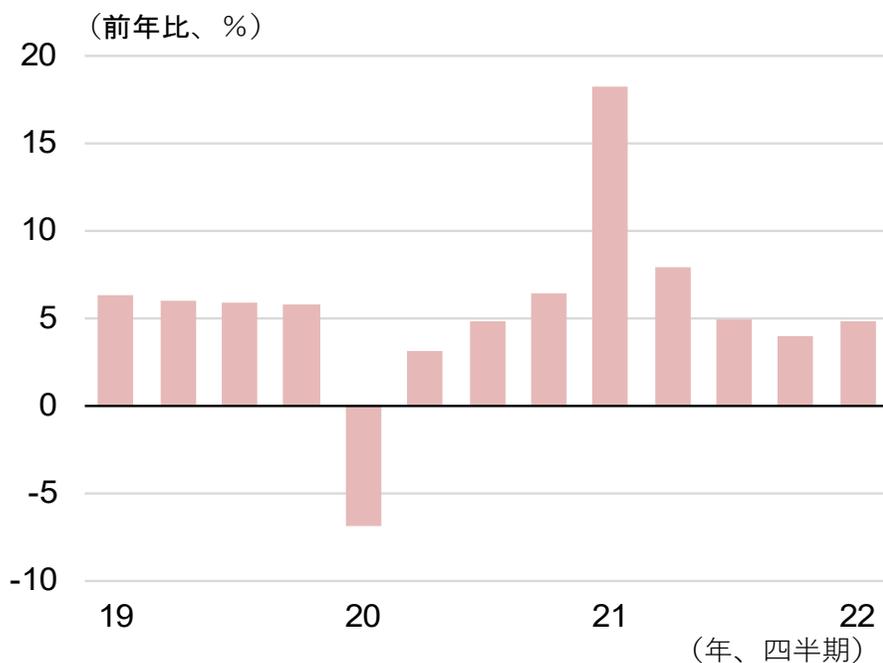
2022年5月10日

調査部 研究員 丸山 健太

景気は減速、PMIも一段と低下

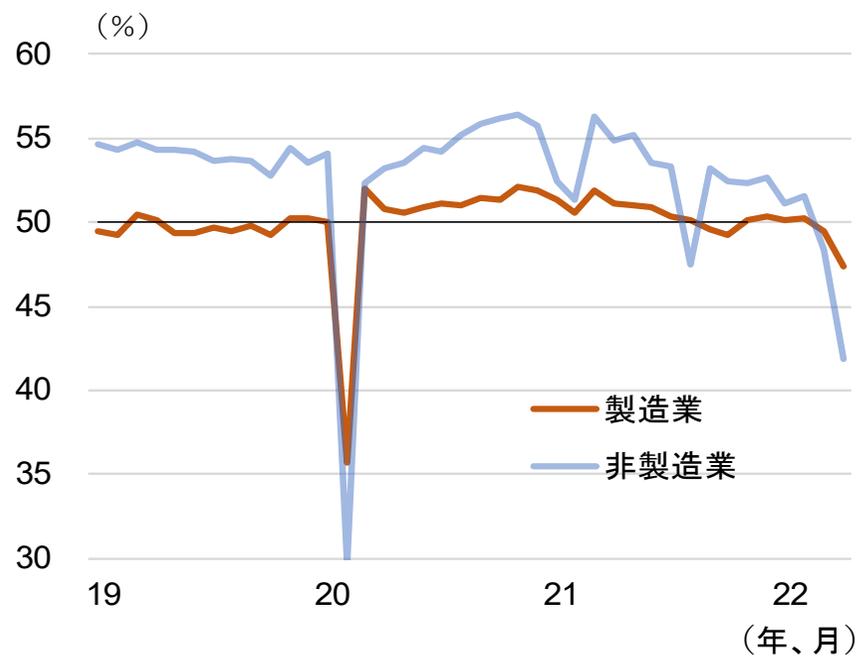
2022年第1四半期の実質GDP成長率は前年比+4.8%だった。季節調整済み前期比では+1.3%と前期(同+1.5%)と比べ減速した。業種別の内訳をみると、規制強化をきっかけに低迷が続く不動産業や、主要都市でのロックダウンの影響が顕著だった宿泊・飲食業でマイナス成長となった。また、足元で景気は一段と減速し、4月のPMIは、製造業、非製造業ともに低下、好不況の判断の目安となる50を2ヶ月連続で下回った。

実質GDP(四半期)



(出所) 国家統計局

PMI



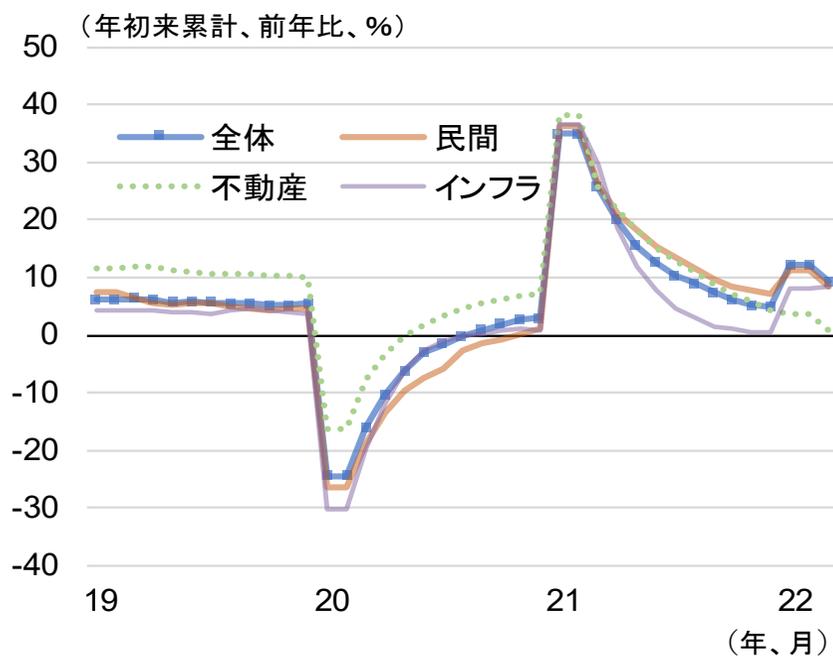
(出所) 国家統計局

固定資産投資、生産とも減速

3月の固定資産投資(年初来累計値)は、前年比+9.3%と増加幅が縮小した。政府が拡大方針を示したインフラ投資は伸び率が拡大したが、主要都市でのロックダウンで需要が縮小した不動産投資は減速した。

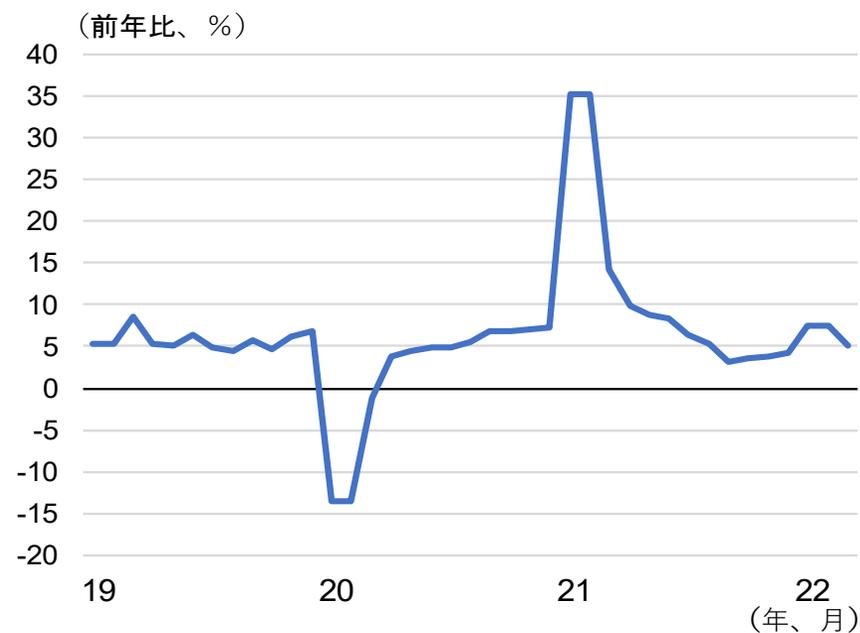
3月の工業生産は、前年比+5.0%と伸び率が縮小した。コロナ禍で需要が強い医薬品や電気機器、コンピュータ・通信などの業種が堅調を維持した一方、主要都市のロックダウンで減産を余儀なくされた自動車は前年割れとなった。

固定資産投資



(出所) 国家統計局

工業生産



(出所) 国家統計局

消費は前年割れ、物価は小幅上昇

3月の小売売上高(名目)は前年比-3.5%と、2020年7月以来の前年割れとなった。深圳や上海など主要都市でのロックダウンで需要が急減、特に、飲食サービス消費(前年比-16.4%)や金銀宝飾類(同-17.9%)の落ち込みが大きかった。4月以降、ロックダウンの影響が本格的に顕在化し、消費はさらに落ち込むことが予想される。

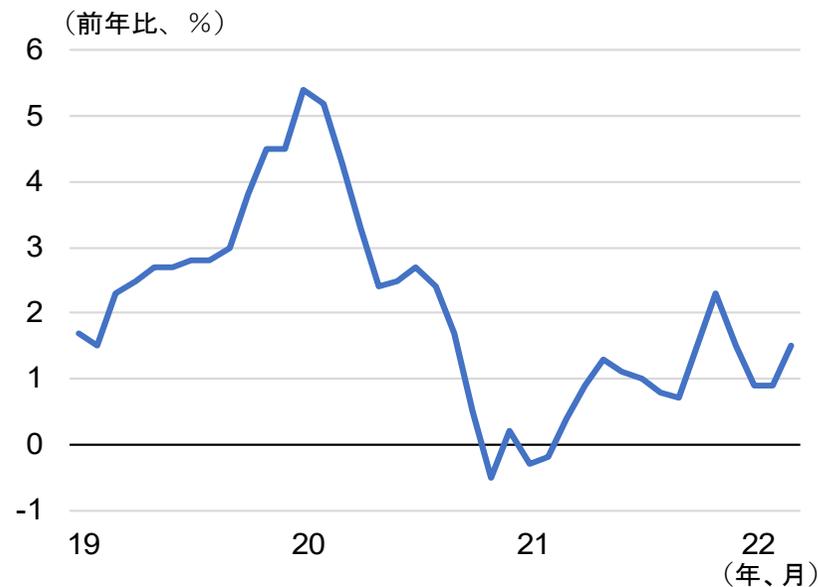
3月の消費者物価上昇率は前年比+1.5%の上昇にとどまった。豚肉など食料品価格の下落が物価上昇を抑制している。

小売売上高(名目)



(出所) 国家統計局

消費者物価指数



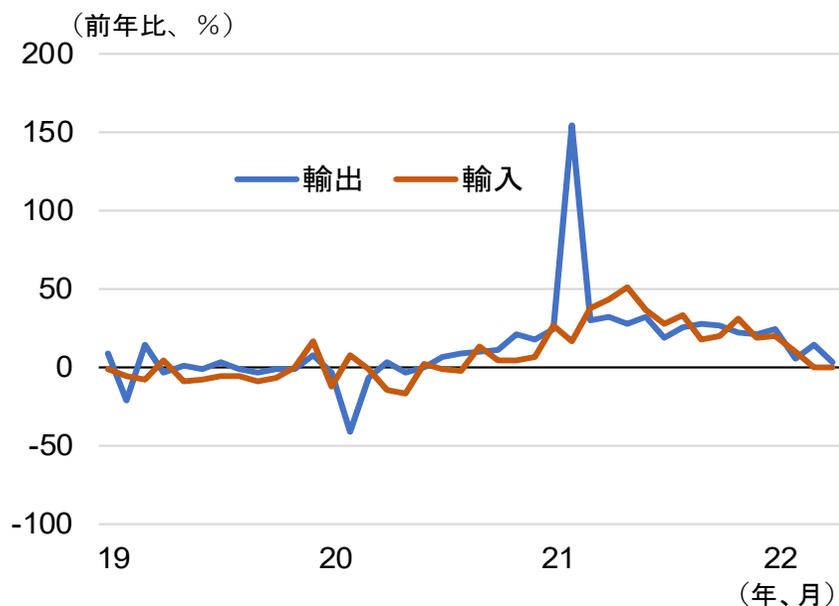
(出所) 国家統計局

輸出は増加幅縮小、輸入は横ばい

4月の輸出は前年比+3.9%と前月から増加幅が縮小し、輸入は前年と同水準だった。貿易黒字は511億ドルと、前年同月(429億ドル)から拡大した。輸出は、コンピュータ類、スマートフォンが減少に転じるなど、上海のロックダウンに伴うサプライチェーン混乱の影響がみられた。また輸入は、内需の弱さを反映し、主に対EUの減少が大きかった。

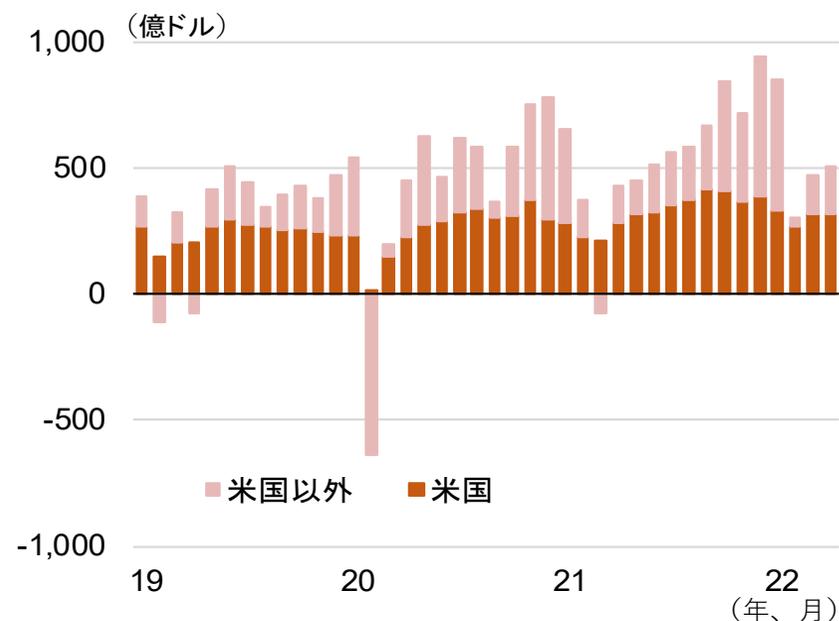
貿易収支は、対米国、対EUの黒字幅拡大が大きかった。

財輸出入



(出所) 海関総署

貿易収支

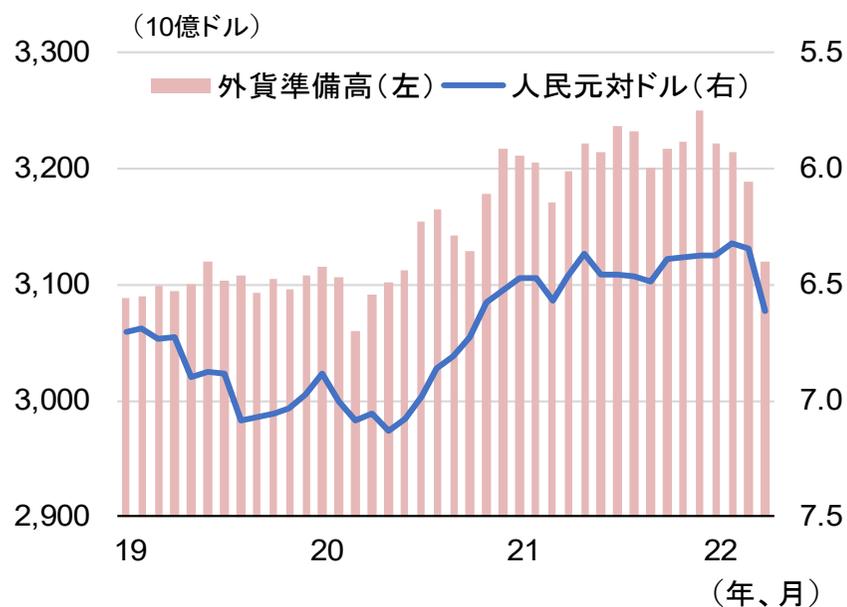


(出所) 海関総署

為替は元安、株価は下落

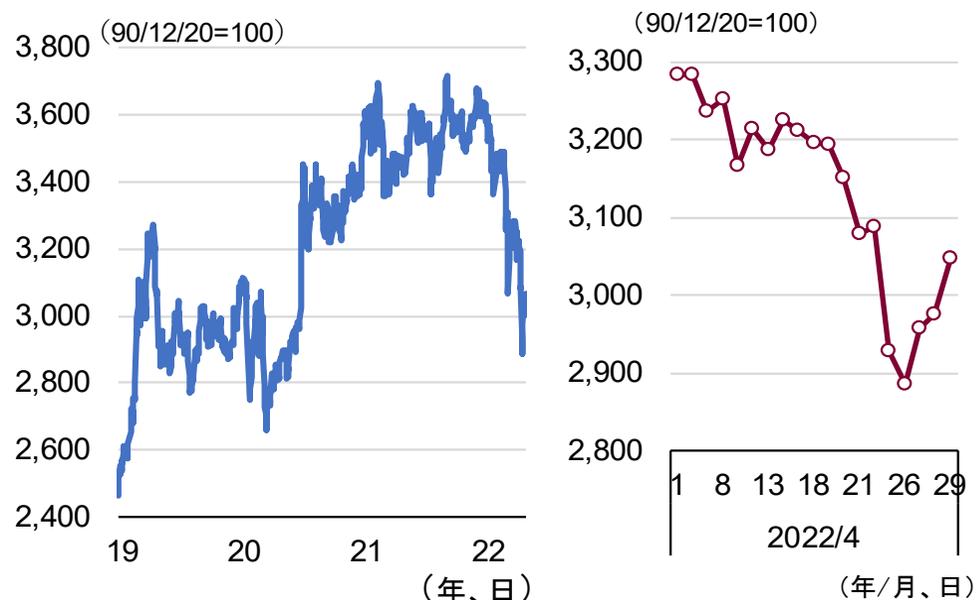
人民元の対ドルレート(4月末値)は1ドル=6.62元と、米国の金融引き締めにより、元安が急速に進んだ。4月末時点での外貨準備高は、3兆1197億ドルと、ドル高でユーロ建て、円建て資産のドル換算額が減少したことにより、大幅に減少した。4月の上海総合株価指数は、新型コロナ感染拡大に伴う主要都市でのロックダウンなどによる景気後退への懸念を背景に下落した。月末にかけては、景気刺激策への期待からやや持ち直した。

外貨準備高



(出所) 中国人民銀行

上海総合株価指数

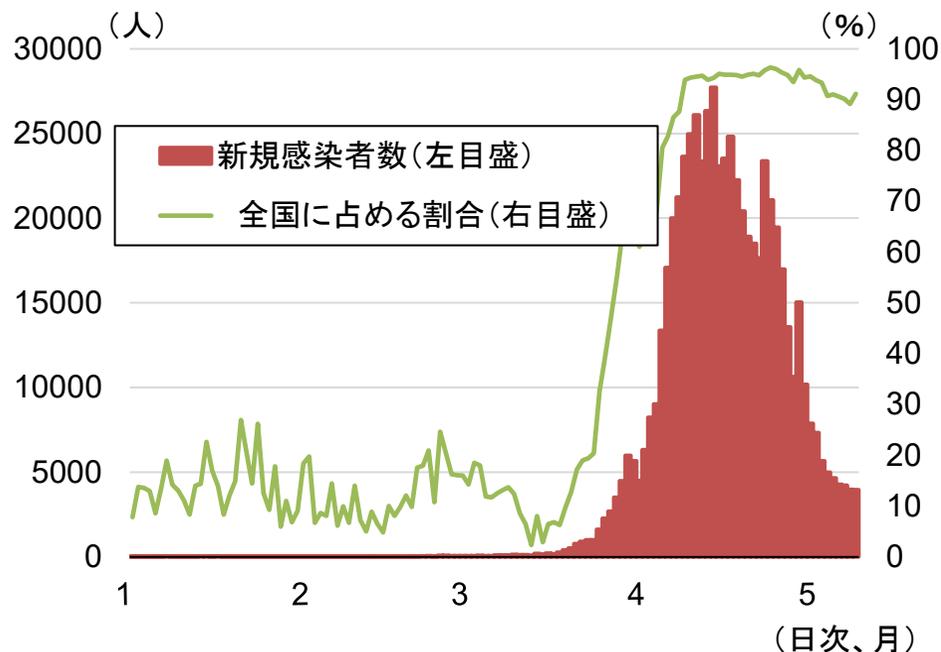


(出所) 上海証券交易所

上海市のロックダウンの影響

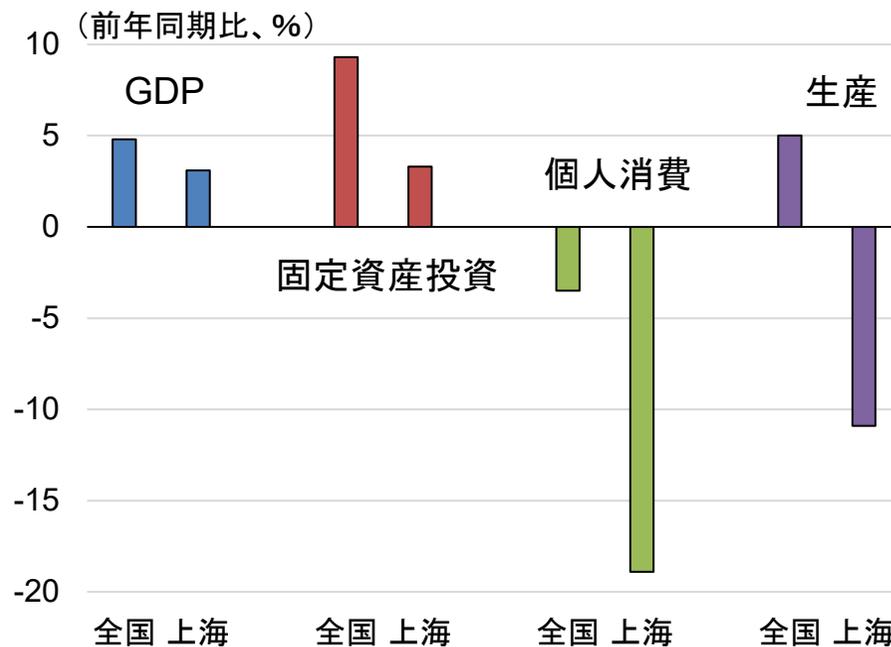
上海市の新型コロナ感染者数はピークアウトしたものの、深刻な状況が続き(左図)、3月28日に始まったロックダウンは未だ全面解除に至っていない。これにより、同市では3月の個人消費が前年比-18.9%と大幅に減少したほか、多くの工場での操業停止で、生産も同-10.9%と減少するなど、経済活動は停滞した(右図)。ロックダウン開始は3月末だったため、4月の経済活動は一段と落ち込むことは確実とみられる。また、上海市には多くの大手企業の工場が立地しているほか、世界有数の規模を誇る上海港を擁することから、サプライチェーンの混乱を通じた世界経済への影響も懸念される。

上海市の新規感染者数と全国に占める割合



(注)無症状者を含む
(出所)国家衛生健康委員会

全国と上海市との比較(2021年第1四半期、3月)

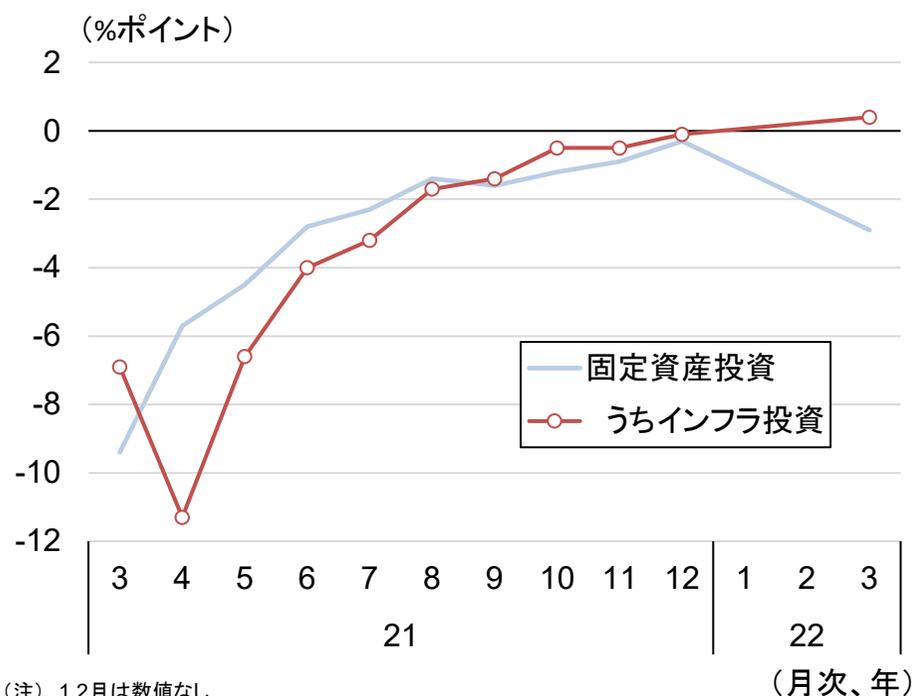


(注) GDP、固定資産投資は2021年第1四半期の、個人消費、生産は2021年3月の前年同期比
(出所) 国家統計局、上海市統計局

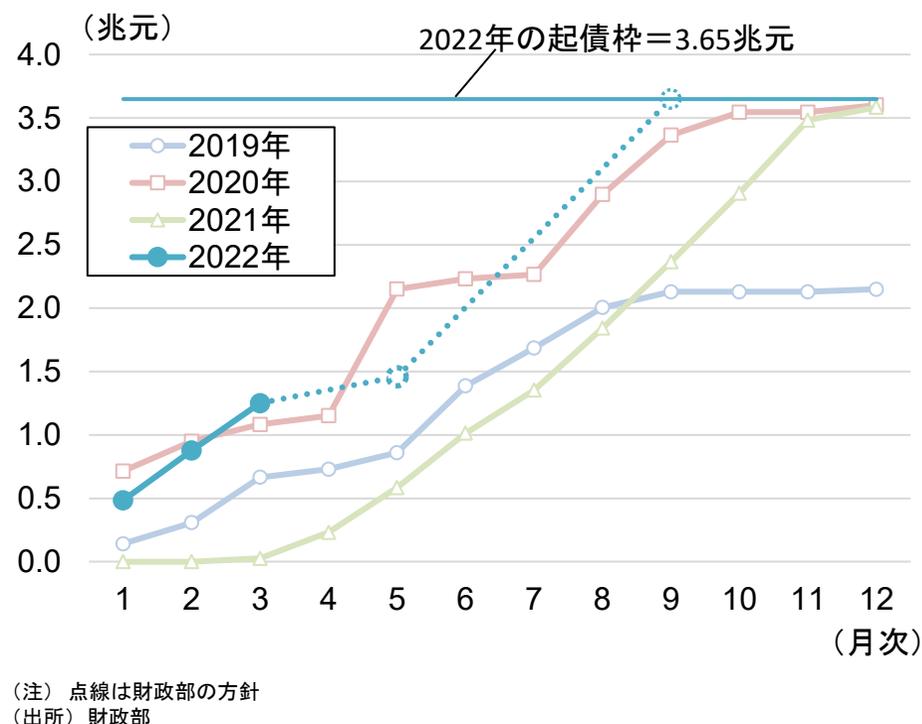
インフラ投資は景気を下支えするか

足元、インフラ投資は好調に推移している。3月は固定資産投資の増加幅が縮小したのに対し、インフラ投資の伸びは拡大した(左図)。この背景にインフラ債発行の加速がある(右図)。新型コロナウイルス感染拡大で中国経済が減速する中、政府は今年のインフラ債発行枠の3.65兆元分の発行を9月末までに終わる方針を示すなど、秋の共産党大会までインフラ投資で景気を下支えする意図が窺える。ただし、多くの都市でのロックダウン措置で部資材や労働者の不足が懸念され、インフラ投資のための資金を確保しても、実際に投資が実行されるか不透明である。

固定資産投資(年初来累計前年比の前月差)



インフラ債新規発行額(年初来累計)



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 丸山 TEL:03-6733-1630 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください